

令和3年度第2回甲賀市商工業振興計画審議会 会議録（案）

開催日時：令和3年10月5日（火） 15：30～17：00

開催場所：甲賀市役所別館 会議室301

出席委員：＜委員＞別紙委員名簿に記載

事務局：＜市＞松下泰也商工労政課長、近藤基博商工労政課係長
立岡直樹商工労政課主査

会議次第：

1. 開会

甲賀市市民憲章唱和

2. 挨拶

3. 報告事項

（1）甲賀市商工業振興計画（令和3年9月見直し）について

資料1

4. その他

5. 閉会

1. 開会

事務局

- ・ 本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。それでは、定刻となりましたので令和3年度第2回商工業振興計画審議会を開催させていただきます。

会議に先立ちまして、市民憲章の唱和をお願いします。ご支障のない範囲でご起立ください。市民憲章につきましては、次第の裏面にあります。私が、前文を読み上げますので、引き続きご唱和いただきますよう、よろしくお願いいたします。

甲賀市市民憲章唱和

- ・ どうもありがとうございました。ご着席ください。それでは、改めまして本審議会の開催にあたり、委員長より一言ご挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

2. 挨拶

委員長

- ・ 緊急事態宣言が解除されまして、オンラインではなく、こうやって全員が集まって会議できることを大変うれしく思っております。ただ、冬に近づくにつれて、第6波が来るのではないかと皆さん心配されているかと思います。当面は、ウィズコロナとして仕事をし、生活をしていくことになりそうです。

今回の商工業振興計画審議会は計画をご報告いただき、皆様で共有していただく回となります。簡単な挨拶ですが、私からの挨拶とさせていただきます。

事務局

- ・ 委員長ありがとうございます。それでは議事に入らせていただきます。審議会の規則では、議長は委員長と規定しておりますので、これからの議事は委員長にお願いしたいと思います。

委員長

- ・ それでは、議事に入ります前に、最初に審議会の成立について、事務局より報告願います。

事務局

- ・ 審議会の成立について、ご報告をさせていただきます。本日の審議会につきましては、13人中9人の委員様にご出席いただき、過半数を超えておりますので、会議開催の要件を満たしていることを報告させていただきます。以上でございます。

3. 協議事項

委員長

- ・ そうしましたら、次第に従いまして報告事項1件でございます。甲賀市商工業振興計画令和3年9月見直しについて事務局より報告願います。

事務局

- ・ 事務局より資料1 甲賀市商工業振興計画（令和3年9月見直し）について報告

委員長

- ・ 資料1でございますが、甲賀市商工業振興計画につきまして、皆さんからさらにご意見、ご質問をいただきたいなと思っております。いかかでしょうか。

委員

- ・ 意見なし

委員長

- ・ 意見はありませんでしたが、せっかく集まっておりますので、今後に向けて委員の皆様から近況や今度の課題とか、取り組んでおられることについてお聞かせいただいで、今後の施策の参考になればと思います。

委員

- ・ 地場産業ということでウィズコロナをふまえて、コロナ禍の中ですべての商業が厳しかったことがわかります。特に信楽の場合は、昔は作家展や商店街など、どこの町にもあり、そういうルートで信楽焼は販売しておりました。ところが、商店街はシャッター通りとなってしまった。今、どういうふうに売れているかというイベントがものすごく重要でございます。そのイベントがコロナで縮小となった。それと今は昔と違って、インターネットで商品が動くようになっております。それと半分は観光でございます。観光につきましては、今はインバウンドの時代であって、信楽焼は焼き物の中では知名度が高いですが、信楽に来るといふ観光としての知名度は低い。なにかこう名所があれば、泊ってもらえるが、水口に来ないと泊ってもらえない。今後はやはりインバウンドをひっぱり。インバウンドをひっぱりにはどうしたらいいかということに取り組まないといけないと思います。

私については土も組合員さんに売っております。このコロナで落ち込むと思っておりましたが、伸びはしないですが、横ばいぐらいで土は売っております。売れなくても腐るものではないことから焼いておく。また、時期が来てくれば売れ出す。それと密にならないようにということから、逆に信楽に来られたお客様も増えた。それが落ち着いて京都や大阪に人が増えたときに、また信楽に来てもらえるかとい

う心配もございます。観光地になれるように、観光も重要な陶器を売る手段でございますので、インフラも含めて取り組んで街づくりを進めていかないといけない。

委員

- ・ 金融面では、前回もお話させていただきましたが、コロナによって物の流れ、考え方、価値観が大きく変わっていく中で、それに応じていろんなものが変容していかないといけない。それがウィズコロナ、アフターコロナという言葉だと自分では理解しております。特に昨年来、国の政策で持続化給付金などの経済的な対策を取られておりますし、また、今回、岸田政権が成立して、岸田総理大臣の方針によりますとまた、さらに経済的な支援施策をうたれるということで、そういった面では経済面、お金のサプライについては、当面は問題ないのではないかと考えております。県下でもあまり企業の倒産が起こっていると聞きません。わかりやすく言いますと銀行の預金量が大幅に増えておまして、一方では設備投資等が控えられて、新たなお金を生む動きが行われていないのが目下の問題ではないかと思っております。また、この甲賀地域については、先ほどから何度も皆様が申されておりますとおり滋賀県でも屈指の工業地域であるのかかわらず、働き手が不足していることが本当に課題となっています。ワーカーの確保が本当に難しいと中小企業のみならず、大企業でも頭の痛い問題だということまで話を聞いております。そういった課題について行政において喫緊の課題として取り組んでいただきたい。最終的にはワーカーさんがここの地域に住んでいただいて経済活動の中で税金を落とさせていただきながら、行政としても十分に運営をしていただく形が一番いいのかなと考えております。特に、この甲賀市については、土山町、信楽町、甲賀町もそうですけども、人口減に歯止めがかかっていないという現実がありますので、行政、金融がしっかりと取り組んでいくべきではないかと考えます。

委員

- ・ コロナになりまして観光産業が影響をうけると言われております。甲賀市においては観光産業だけで生計を立てておられるのは限定的でございましたので他と比べて影響は少なかったかなと思っております。ただ、日本遺産の認定を受けまして甲賀市にもたくさんお金を使っていただいて一昨年に拠点をオープンいたしました。ちょうどコロナとあたりまして、リアル忍者館を核として忍者観光、甲賀市の観光振興を図っていかうとした矢先にコロナの発生でなかなかPRができず、観光振興がここ1年は図れなかった。そういった中でも、準備を図っていかうということでウィズコロナとして、何年か続くと予想されますので、今までと違った振興をしていかないといけない。伝統観光行事もすべて、延期または中止になってしまいましたので、甲賀市のイベントとしましては、本当に地域の方に支えてもらって伝統観光行事をさせていただいていましたが、それもほとんど中止になってしまいました。今後、再開するには、また、厳しいのではないかと危惧しているところです。

このような状況ではありますが、観光につきましては、リアル忍者館を中心に、新たな客層であったり、様々なアンケートをとったりアドバイザーと協力をあおりながら、ターゲットを絞らずにPRをしてきましたが、今後は、こういった方に甲賀市にきてもらうにはどのようにしていったらいいか、コロナの時間を利用して逆に準備をして、プラスに進めていっているところです。甲賀市には、全国で3位と言われているぐらいゴルフ場がたくさんあります。コロナの影響でゴルフ場のお客が増えておりますのでゴルフ観光という形の中で甲賀市観光まちづくり協会の中でも今後、ゴルフ場の方々と連携をとりながら、進めていきたいと思っております。またゴルフは税金も市にも入りますし、市の財政も潤うことにもなります。ゴルフ場に来られるお客様もある程度、余裕のある方もおられますので、ご家族で来ていただいて、お父さんはゴルフ、ご家族の方は観光をしてもらえそうなツアー作りをしていきたいと思っています。新たなゴルフをきっかけに、安心だということで若い方が増えておりますし、ゴルフ客も増えております。以前は、どこのゴルフ場についても知っている顔ばかりでしたが、最近は知らない方ばかりで、平日でも利用者が多いところも増えてきましたので、なんとかこれを機会に、甲賀市全国3位ということで工場もたくさんありますが、ゴルフ場もたくさんあるということで来ていただきたい。また、観光協会の理事にゴルフ場の関係者も入っていただいて連携をしながら、コロナで生まれた新たな道筋として、観光振興計画の中にもスポーツを入れていただきましたので、忍者、東海道と肩を並べるぐらいのゴルフを取り入れて、このコロナの期間を無駄にせずに甲賀市ならではの観光振興を図っていきけるように頑張っていきたいと思っております。

委員

- ・ 求人がどのくらいあるかといいますと、8月時点の有効求人倍率は、0.88倍となっております。この数字というのは、一人でどのような仕事に就いてもかまいませんよとハローワーク甲賀でお仕事を探して下さって、一人で1件の求人があれば有効求人倍率は1倍となります。0.88倍というのは、100人の求職者に対し88人の募集しかないという状態です。この数字ですが、昨年同月比で0.23ポイント増加しております、改善傾向に向かっております。

私も緊急事態宣言が発令される前に企業様へ訪問させていただきますと、なかなか応募者がおられないという企業様のお声をお聞きしました。このような良い企業様に応募者が来られないというのは、なぜだろうと思いつつ、そのうちに緊急事態宣言が発令で、その後は企業様への訪問ができない状態になりました。また宣解除となった今、関係機関の皆様方と連携しながら、企業様に対して求職者の方を採用してもらえよう活動を積極的にしていく所存です。

求職者の方は、最近インターネットのみを活用して就職活動をされる方もおられ、ハローワークに足を運ばれない方もおられます。この9月から、求人者マイページを利用していただければ、来所いただくことなく求人をお出しいただけます。また、

求職者の方も求職者マイページの登録をしていただくと、来所いただくことなく求人への応募が可能となります。もちろん今までどおり、来所いただいた方に対しては対面の職業相談を引き続き行っておりますし、求職者マイページを活用してハローワークからの様々な案内もさせていただいております。

委員

- ・ 2点ほど少しお話をさせていただければと思います。今回、6次産業プランナーとして参加させていただいております。この制度の建付けとしては、国の農水省の制度でやっております。6次産業化プランナーにも2種類ありまして、県レベルで対応するプランナー。滋賀県でもプランナーがいらっしゃる。こちらのほうに私も今年度より参加させていただいております。国レベルで対応する中央プランナーというのがいるのですが、こちらのほうは全国で110名くらい。そちらのほうは2014年くらいから、登録させていただいております。いろいろな農家さんの支援をさせていただいております。今年度から、中央サポートセンターが国のとりまとめをするのですが、そこで事務局をやっている会社が、最近、淡路島に移転し話題になっているパソナさんです。仕事が忙しいので事務局の仕事も手伝ってくれと今年度からなりました。いまは全国的レベルのプランナーさんをコーディネートする仕事もさせていただいております。全国で、6次産業化についてどのような動きになっているかということも情報が入ってくるようになりまして、甲賀市の参考となるようないい例があれば、是非、情報提供させていただければと思っております。あと2点目なのですが、これでプランができたので、これから推進されていくと思いますが、ちょっと具体的にできそうなことはないかと考えておりました。2つほど気になることがあります。ひとつは、JRとか鉄道の話ですね。複線化どころか貴生川から先がなくなってしまうという話もあった。これはうちの娘も利用しておりますので、なくなったら困る。あと農業の関係でいいますと今年度、新米のシーズンになってきましたが米価の価格がかなり下がっております。2割、3割下がるのではないかと言われております。1俵1万円を切るおそれもあるということで。コロナで飲食事業者の需要が減ったということもあると思います。人口も減って、まだ続く可能性があります。米なんて作れないという農家さんがでてくるのではないかと考えております。非常に気になっております。この辺の2つの危機をうまく乗り切れる方法を何かないかなと考えていました。わかりやすく一言でいうと甲賀市の鉄道沿線を公園みたいにできないか。鉄道沿線で田んぼ、畑があるところがあります。そこにお米もいいのですが、お花とか景観作物。春ならレンゲとか菜の花とか、夏ならひまわりとか、あとは秋ならコスモスとか、そういうのをお米の代わりに植えて、電車をアトラクションみたいな感じで乗ること自体が楽しいというような使い方。そんな形で観光客の方に来ていただいて、鉄道から観る景色が最高の景色だというようなもので観光にもいい取り組みができれば面白いなと思っております。あと、特区構想で貴生川駅の話も出てきております。貴生川駅を基点に何

かやればそっちにも相乗効果ができればいいと考えておりました。

副委員長

- ・ コロナウイルス感染症で言いますと10月1日でようやく緊急事態宣言を打ち切りということで、なんとか人の流れが少しですが動いていくのかなと感じているところです。よく街頭インタビューで聞くことがあるのですが、早くお食事がしたい、早く旅行にいきたい。もう、みなさんが、我慢している。このコロナは、本当に人と人との繋がりを分断してしまう存在であったと思います。私も事業が宿泊、飲食ですが、人と人との繋がりが密接な関係の事業でございます。なので、このコロナはダメージをうける事象でありました。ただひとつ、こういったこともまたあるぞという勉強をさせてもらった貴重な機会でもありました。まだまだ予断をゆるさない状況で、感染者が減ってきたという報道もありますが、いずれまた、波はくると思っております。ただ、以前と違うのはワクチンが非常に普及もしましたし、打たれる割合も増えましたので、甲賀市さんも緊急対応で非常にスムーズな働きをしていただいたおかげで市民の皆様の安全が確保できているのではないかと感じているところです。そういったこともありますので波はゆるやかになってくるのかなと思っております。おかげでコロナ関係のいろいろな支援金なり、融資のほうを金融機関から協力をいただきましてなんとか繋がっている。これはいつまでも返さなくてもいいというものではなくて、また返済の時期がまいります。それまでに早く次の手を打ってウィズコロナでどのように対策をしていけばいいのかということ商工業の全体で取り組んでいかないといけないと思います。産業革命ぐらいの仕事のやり方を考えていかないといけない。コロナがあったことで人と人との繋がりがこんなにも大切なことだったということを感じかされた。早く回復して欲しいと思っております。今、それとお薬も開発されていると聞いておりますし、また、それを今後はインフルエンザのような感覚でコロナってこうだったよねと過去の話になるようになってほしいと思います。いずれにしてもウィズコロナに向けての事業をしっかりと考えていく、そういった勉強会をやって、この地域の商工業に携わる皆様が早く元の状態に戻っていける役割を担っていけたら本当にありがたいなと思っております。仕事のやり方、商品の選び方がネットとかSNSとかで選ぶ時代となっております。会議でもZOOMになってきている。そういった方法がどんどん普及していくのかなって思うところです。この地域の特徴のあるもののお取り寄せ商品が流行っている。他にはないちょっと特別ないいものを観光協会、行政、商工で作っていただけたいと思います。

委員

- ・ この4月から職場で異動がありまして滋賀県プロフェッショナル人材戦略拠点というところに配属しております。プロ拠点というところなのですが、各都道府県にひとつずつございまして、国のほうが、都市部にいろいろな人材が集まるのを地方

に繋げるような仕事をしなさいというのが狙いです。それで今回はプロフェッショナルで優秀な人材を、人材会社を通してマッチングをしている。全国で契約件数が滋賀県は全国で5位です。このコロナの影響で何か変わったことがあるかというところ、副業、兼業の人材を都市から引っ張ってくる。その働き方が多くなってきている。会社の課題がありますので、ここで優良な人材をもってきてほしい。しかし、雇用まではお金がかかるし、どうしようかなというところで都市から副業の方を呼び込んでくる。ご紹介をするという契約件数が非常に多くなっている。これも働き方改革の影響もあるかなと私たちは思っております。それと滋賀県では移住者支援をやっておりまして、都市から移住されて就職されたら最大100万円補助しましょうというのがございます。ただし、対象地域というのが限られていまして甲賀市はその対象地域になっておりますので是非こういった形で甲賀市さんと連携しながら移住者支援を進めていきたいと思っております。また、今後とも、プロフェッショナル人材拠点を困ったときに思い出していただければスタッフがすぐに説明にまいりまして、会社の課題というのを導いて、そうすればこういう人材を探しましょうということで協力いたしますのでご利用いただければと思います。

委員

- ・ 工業会のビジネス交流会の委員長をやらせていただいております。取り組みをさせてもらって一番、皆さん企業さんとの交流の中でお話を聞くと人材不足が大きな問題です。当面の人材不足をどうするのかというところ、地場におられる人材をいかに活用するかが一番の重点項目かなと考えております。以前から言わせていただいております企業、工場の見学会を、小学生を対象にさせていただいております。親御さんも来られますし、子どもさんも見るなり聞くなり、興味をもっていただいております。担い手を育成する。将来は興味をもっていただいて就職していただく取り組み。それと、企業間交流として他市町村との交流会もここ2～3年コロナの影響でできておりませんが、工業会、商工会と交流をさせていただいて情報を得て参考にさせていただいております。商工業の振興の一助になればいいのではと思っております。あと、建設業を営んでおりまして、われわれの建設業協会甲賀支部はメンバーが150社近くあります。その建設業も特に人材が不足しておりまして、全然、就職してくれない。集まってくれない。新卒の人、理工系の人などは来てくれない。文系の人を育てていくというのが現状です。出前事業として学校を訪問させていただいて、建築、土木など体験をしてもらっている。建設に興味を持ってもらって将来、勤めてもらえればいいと活動している。なかなかコロナでわれわれもお客様との商談関係、なかなかスムーズにいかなかった。ただ、よかったのは東京にわざわざ商談に行かなければいけなかったのが、新幹線代、宿泊代、食事代とかかけっこうな金額になる。今はそういうことをしなくてもデジタルで商談できる。コロナの関係でデジタルが進んだ。対面しなくても商談ができる。会議ができるようになっていく。これからは、デジタルの部分はまだまだ発展していく。すごいものになって

いくと思います。5Gが普及するとすごいことになってくるのではないかと思います。また、当然、企業として取り残されないようにしていかないといけない。それと電車だけにこだわるのではなく、野洲駅にBRT（自動運転・隊列走行）のテストコースができました。整備すればバスで人を集めて、鉄道に乗り換えるような方法も考えられる。BRTですとホームが短くて、駅もコンパクトな駅ができる。いい方向にできるのではないかと考えております。それもひとつの案であると思います。

委員

- ・ 前回、この会議で9ページにあります医薬品の生産金額が5,440億円、全国で5位であると言っておりましたが、ゴルフは3位だと聞いて負けたなと思いました。ショックを受けております。この数字というのはたぶん、もう二度とできない。滋賀県の医薬品生産額で最高の数字だと思っております。2019年度ですから、多分、今は落ちているのではないかと思います。ここまで伸びているのは国の施策であるジェネリック薬品の推進に乗っかってここまで伸びてきた。国の目標達成できましたので、これ以上は伸びないと考えております。新薬が切れるものがそうなのと、人口減少問題で減る一方であると考えている。そこでわれわれどのように対応していかないといけないか。先ほど、人材不足もありますが売り上げも下がっていく。それを防ぐためにも何かしていかなければならない。その中で甲賀のくすりをブランド化できないか。ブランド化の研究を今、始めている。なかなかブランド化が難しい。甲賀のくすりは忍者をルーツとしてあるのですが、企業が甲賀だけではないため、難しい。どうしてもかみ合わない。今年、頑張っってブランド化事業を進めていって、甲賀のくすりを世界に発信していきたい。インバウンドがなかなか難しい中、販路を探しているところがございます。人材不足については、やっぱり機械化だと思っております。前向きな企業には支援を甲賀市もやっていただきたいと思っております。コロナの薬を塩野義さんが頑張っって作っておられるのですが、残念ながらウイルスは変異するので変異したウイルスに対応した薬を作らないといけない。作っても作ってもウイルスが変わっていくので、イタチごっこみたいになっている。だから、どうしたらいいのかいうと予防なのですね。予防と自分の免疫力を高めていくしかない。それを甲賀のくすりで実現できたらいいと思っております。

委員長

- ・ ありがとうございます。みなさんどういう状況なのか、どういう考えなのか教えていただきました。私も知らなかったこともございました。多様な可能性を感じるお話をいただきましてありがとうございます。事務局から何かございますか。

事務局

- ・ 去年来から貴重なご意見といただきましてありがとうございます。特にこのコロナの状況の中でわれわれ甲賀市の商工業の振興にどのように取り組んでいくのか難しい状況でした。一番、現場に近い皆様からご意見を伺いましたので、振興計画ではこういう体裁にはなりましたが、本日、われわれ商工労政課として商工振興の部分、雇用の部分、そういったものにしっかりと反映していきたいと思います。また、隣には観光の課がございますし、農業振興、林業振興がございますのでそういったところを産業経済部としてどう取り組んでいくのかいろんなご提案、ご意見を賜ったと思います。新年度予算方針が出されましたので来年度に向けて議論を深めているところであります。しっかりと反映をさせていただきながら、商工業振興につなげていきたいと思います。2025年の大阪関西万博に向けて近畿経済産業局さんが信楽焼をブランドとして選んでいただきましたので、信楽焼だけでなく地場産業のブランドをどのように出していくのか局と話しているところです。コロナ禍の中で、海外の人をどう甲賀市に呼び込んでいくのか。あとは人材不足感。製造業。そういったところ就職氷河期時代も含めて、支援も始めております。いずれにいたしまして、次回、以降につきまして、進捗も含めましてご意見を伺いながら進めていきたいと思います。

委員

- ・ ありがとうございます。議案は以上でございます。円滑な議事進行ご協力いただきましてありがとうございました。進行を事務局へお返しいたします。

事務局

- ・ 長時間にわたりありがとうございます。それでは、これをもちまして商工業振興計画審議会を閉じさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。